ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

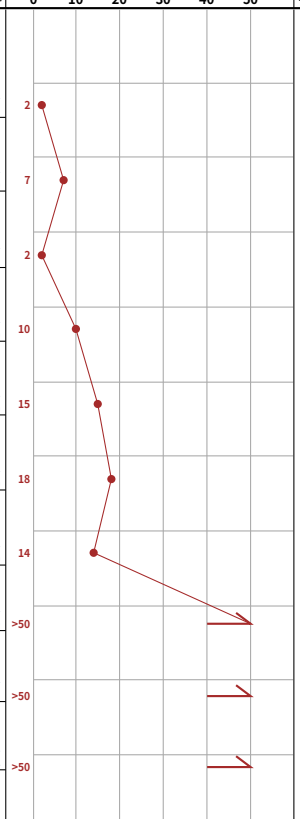
シートNO.

ボーリング名	NO.2-4(副堰堤)	調査位置				北　緯	36 ° 32 ' 35.0000 "
発 注 機 関	栃木県鹿沼土木事務所			調査期間	2007-12-26 ～ 2008-03-21	東　経	139 ° 41 ' 29.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	163.82 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	10.19 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					礫混り粘土 (CH-G)	暗褐		軟らかい	植生根、腐食物混じる。 含水比は中位から高位。 粘着性は中位。 礫径2から30mmの角礫混じる。		02/06 2.62
	161.92	1.90	1.90								
					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗褐	緩い		礫径2から25mmの角礫主体となる 礫間、粘土と少量の砂を充填 含水やや中位となる。		
	161.22	0.70	2.60								
					火山灰質粘土 (CHV)	茶褐		中位	粘着やや弱い。 軽石や礫径25mm角礫点在。		
	160.47	0.75	3.35								
					礫混り粘土 (CH-G)	茶褐		中位	粘着強い。 礫径2から20mmの角礫所々混じる		
	159.57	0.90	4.25								
					粘土混り砂礫 (GS-C)	暗褐	中ぐらい		礫径2から40mmの角礫主体。 間隙に少量の粘土分を含む粗粒砂充填。 含水比は中位から高位。 6.60から6.90mの間、全体に粘土多く混じる。 全体にルーズな状態となる		
	156.82	2.75	7.00								
	156.52	0.30	7.30		粘性土 (C)	褐灰			スコリア、細砂分軟質に混入		
					風化岩 (WR)	暗褐灰	中ぐらい		粘土混じり砂礫状となる。 7.70から7.80mの間、褐色に変化		
	155.87	0.65	7.95								
					頁岩 (Sh)	暗褐灰	非常に密な		コア長10cm程度の柱状コア主体 亀裂多数あり、割れ目褐色。 9.00mから黒褐色に変化。 9.28から9.40m岩片状コアとなる 9.60から9.85mの間、状態悪く粘土状、岩片状コアとなる。		
	153.63	2.24	10.19								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0–10	10–20	20–30	打撃回数／貫入量 (cm)	N 値
1.15	1 / 16	1 / 15		2 / 31	2
1.46					
2.15	3	2	2	7 / 30	7
2.45					
3.15	1 / 23	1 / 9		2 / 32	2
3.47					
4.15	1	4	5	10 / 30	10
4.45					
5.15	6	5	4	15 / 30	15
5.45					
6.15	3	8	7	18 / 30	18
6.45					
7.15	4	5	5	14 / 30	14
7.45					
8.15	27	23 / 9		50 / 19	>50
8.34					
9.15	34	16 / 3		50 / 13	>50
9.28					
10.15	50 / 4			50 / 4	>50
10.19					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						02/06
						02/07